

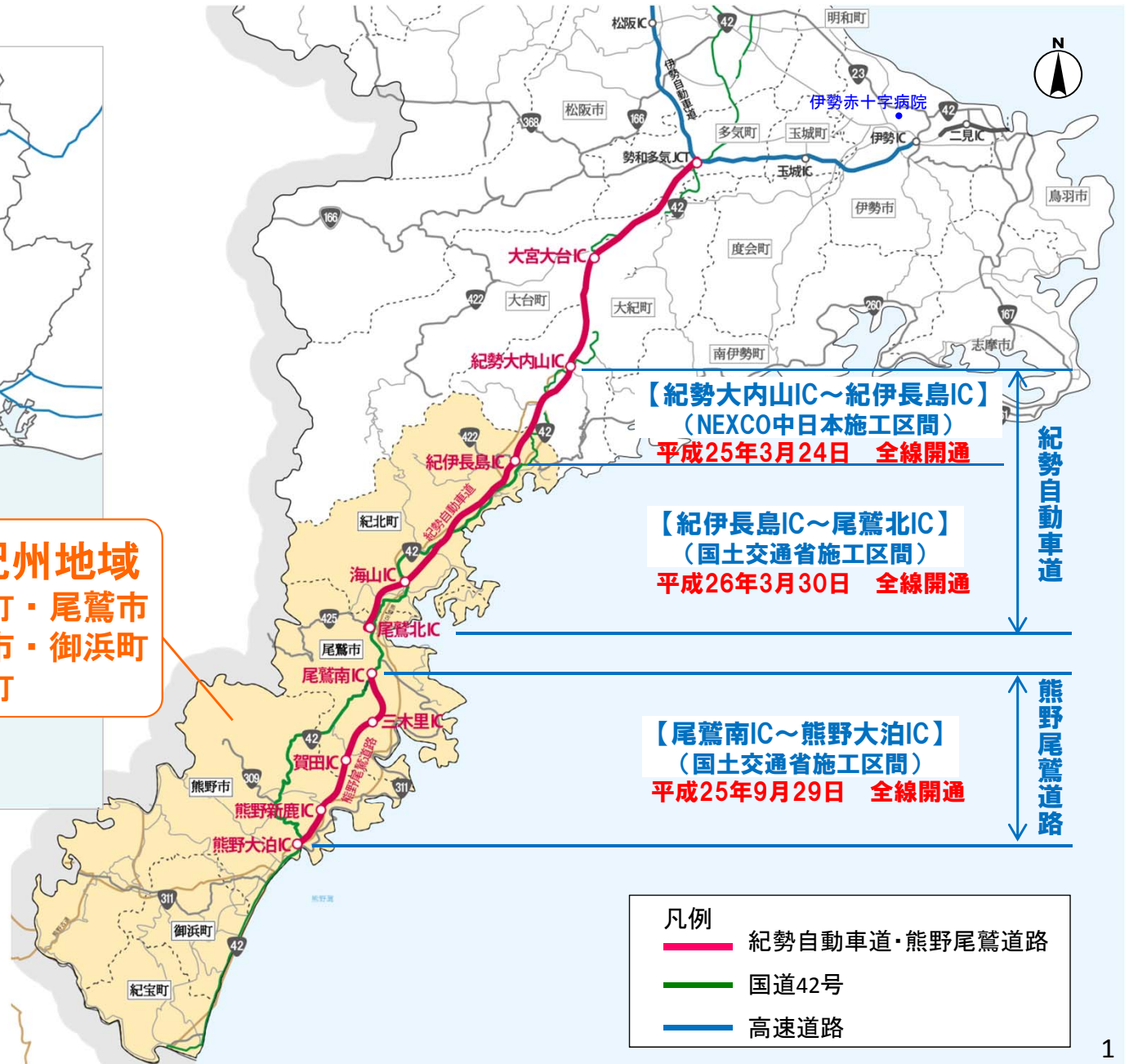
～高速ネットワークの形成～

■ 紀勢自動車道・熊野尾鷲道路の開通により、東紀州地域は名古屋市などの各地域と高速ネットワークが形成されました。

■ 広域図



東紀州地域
紀北町・尾鷲市
熊野市・御浜町
紀宝町



～地域医療の変化(尾鷲総合病院)～

- 熊野尾鷲道路の開通による所要時間・距離の短縮により、**熊野市から尾鷲総合病院への新規患者数は約40%、外来患者数は約10%増加**しています。
- 尾鷲総合病院は**三重県内の公立病院で最多の透析患者を抱えています**。患者は1日おきに通院する必要があり、「**大雨時でも事前雨量通行規制による通行止を心配せずに通院**できるようになりました」との声がありました。

■尾鷲総合病院に通院している透析患者の居住地



【尾鷲総合病院の特徴】

- 初診時の紹介状が必要なく、24時間365日診察を受付。

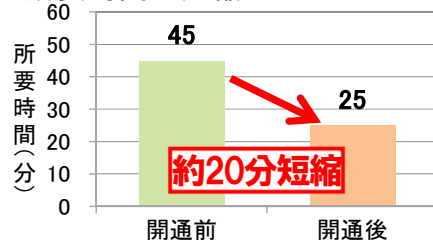
凡例

市町名
透析患者数
全体割合
(尾鷲総合病院)

県外
1人
約1%

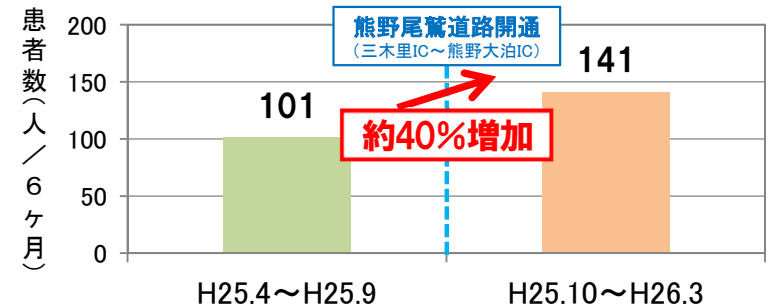
熊野市
4人
約3%

■熊野市から尾鷲総合病院までの所要時間の短縮

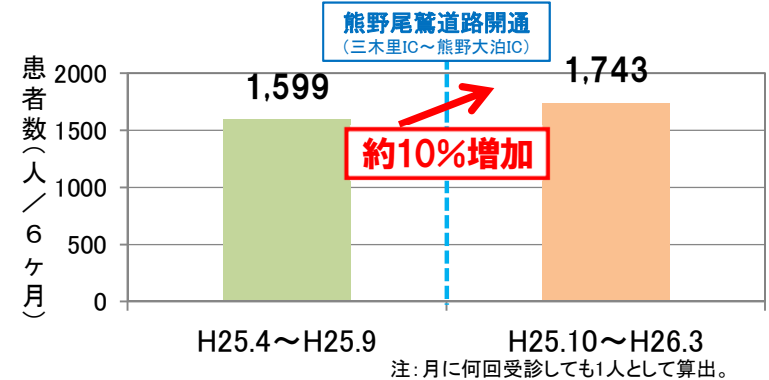


資料：熊野尾鷲道路は規制速度、その他の道路についてはH22年道路交通センサスを用いて算出

■熊野市からの新規患者数の推移



■熊野市からの外来患者数の推移



■尾鷲総合病院 事務長の声

- 熊野尾鷲道路が開通したことにより、熊野市から約20分で通院できるようになり、新規患者・外来患者とも増加しています。
- 尾鷲総合病院は、三重県内の公立病院で最多の146人の透析患者を抱えています。透析は一日おきに通院する必要があり、患者からは大雨時でも事前雨量通行規制による通行止を心配せずに通院できるようになりましたとの声を聞きます。

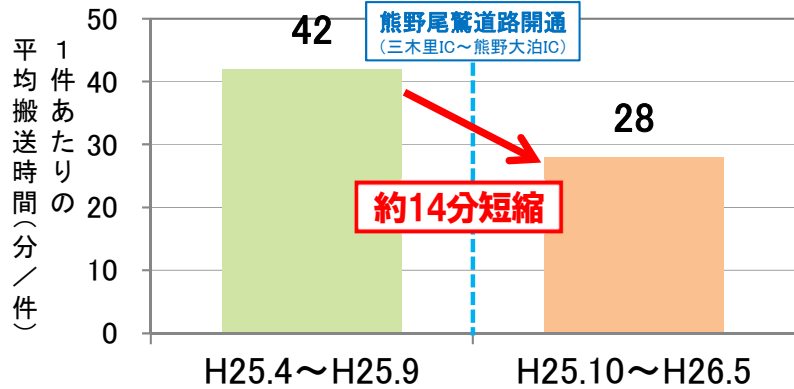


資料：紀勢国道事務所による尾鷲総合病院へのヒアリング調査結果より

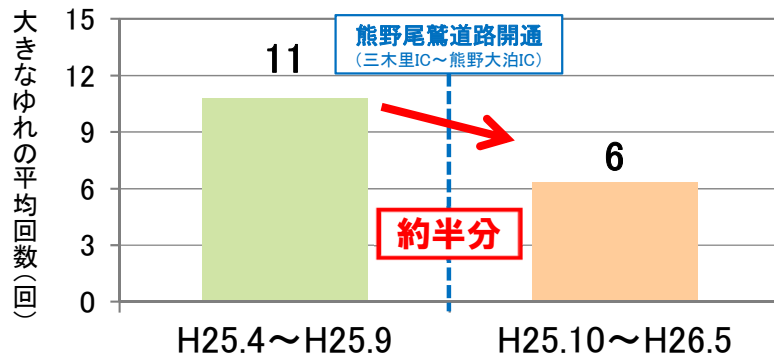
～救急医療搬送の変化(2次救急医療サービス)～

- 熊野尾鷲道路の開通により**熊野市中心部**から尾鷲総合病院への**搬送時間は約14分短縮**されました。
- 又、救急搬送時の走行性が良くなり、大きな揺れの回数が減少し、**搬送される患者への負担が少なくなる**とともに、**車内で応急処置を実施する救急隊員の負担も大幅に軽減**されました。

■2次救急医療施設への搬送時間の短縮 ～熊野市中心部から尾鷲総合病院～



■搬送時における走行性の改善(尾鷲南IC～熊野大泊IC間) ～熊野市中心部から尾鷲総合病院～



※大きな揺れの平均回数

熊野市中心部から尾鷲総合病院へ搬送した時の、尾鷲南IC～熊野大泊IC間における搬送1件あたりの横加速度0.15G以上の平均回数。

※0.15G

第27回日本道路会議「地域の医療を支援する道路構造の分析・評価」において、最高血圧変動量が10mmHgを超える状況が出現することが確認できた値。



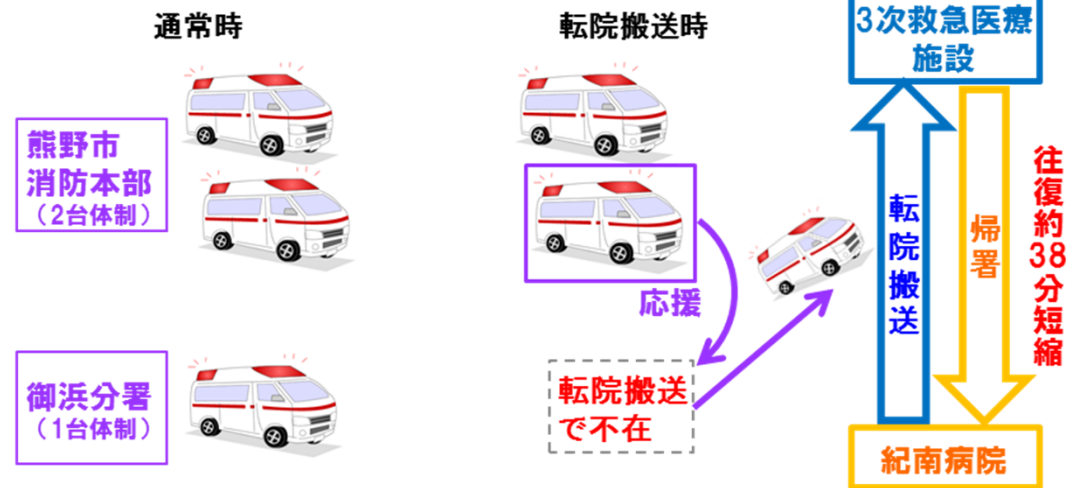
～ 転院搬送の変化(3次救急医療サービス) ～

- 当地域から、**救急車を利用した3次救急医療施設への搬送は、転院搬送が主体**です。
- 紀勢自動車道・熊野尾鷲道路の開通により、**紀南病院(2次救急医療施設)から伊勢赤十字病院(3次救急医療施設)への救急車による転院搬送時間が約19分短縮**されました。
- 転院搬送を行うことによって地域から救急車が通常よりも1台少なくなります、**搬送時間の短縮により地域の救急車の台数が少ない時間帯が短縮**されました。

■ 東紀州地域の医療搬送体制の実態



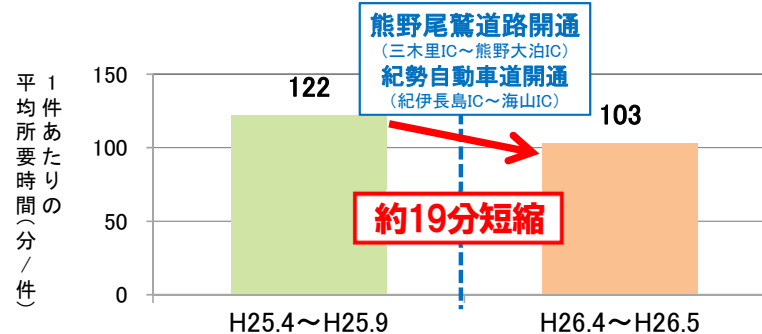
■ 転院搬送時の応援態勢



■ 位置図



■ 3次救急医療施設への転院搬送時間の短縮 ～ 紀南病院から伊勢赤十字病院～



■ 熊野市消防本部の声

- ・ 夜間等のヘリの使えない事案のときや、急な転院搬送のときに非常に助かっています。
- ・ 紀南病院から転院搬送をする際には、御浜分署の救急車を利用しますが、御浜分署には救急車が1台しかいないため、熊野市消防本部から1台応援に行きます。そのため、地域から救急車が通常よりも1台少なくなります、**搬送時間の短縮により地域の救急車の台数が少ない時間帯が短縮**されました。



～国道42号の代替路としての機能～

- 平成15～25年度の過去11年間における国道42号 事前雨量通行規制区間における通行止は延べ44回、530時間。
- 平成26年度に入ってから延べ3回、49時間の通行止が発生するが、渋滞など目立った混乱もなく、紀勢自動車道熊野尾鷲道路が国道42号の代替路として機能を発揮。

■事前雨量通行規制区間と過去の災害状況



※鷲毛はH25.10の災害により暫定雨量規制開始。

■開通前後における通行止時の状況

＜開通前＞【H22. 10通行規制時】
【国道42号 大又ゲート】



ゲートの前で通行止の解除を待つ渋滞の列

＜開通後＞【H26. 6通行規制時】

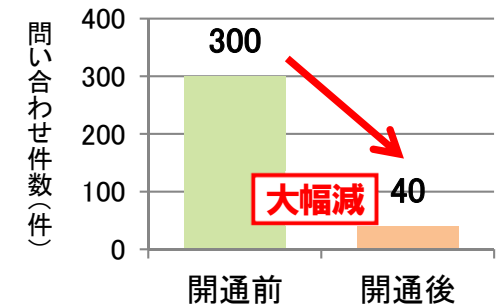


通行止ゲート前では渋滞なし



国道42号が通行止でも走行可能な熊野尾鷲道路

■弓山(矢ノ川峠)通行止時、紀勢国道事務所に寄せられた問い合わせ件数の変化



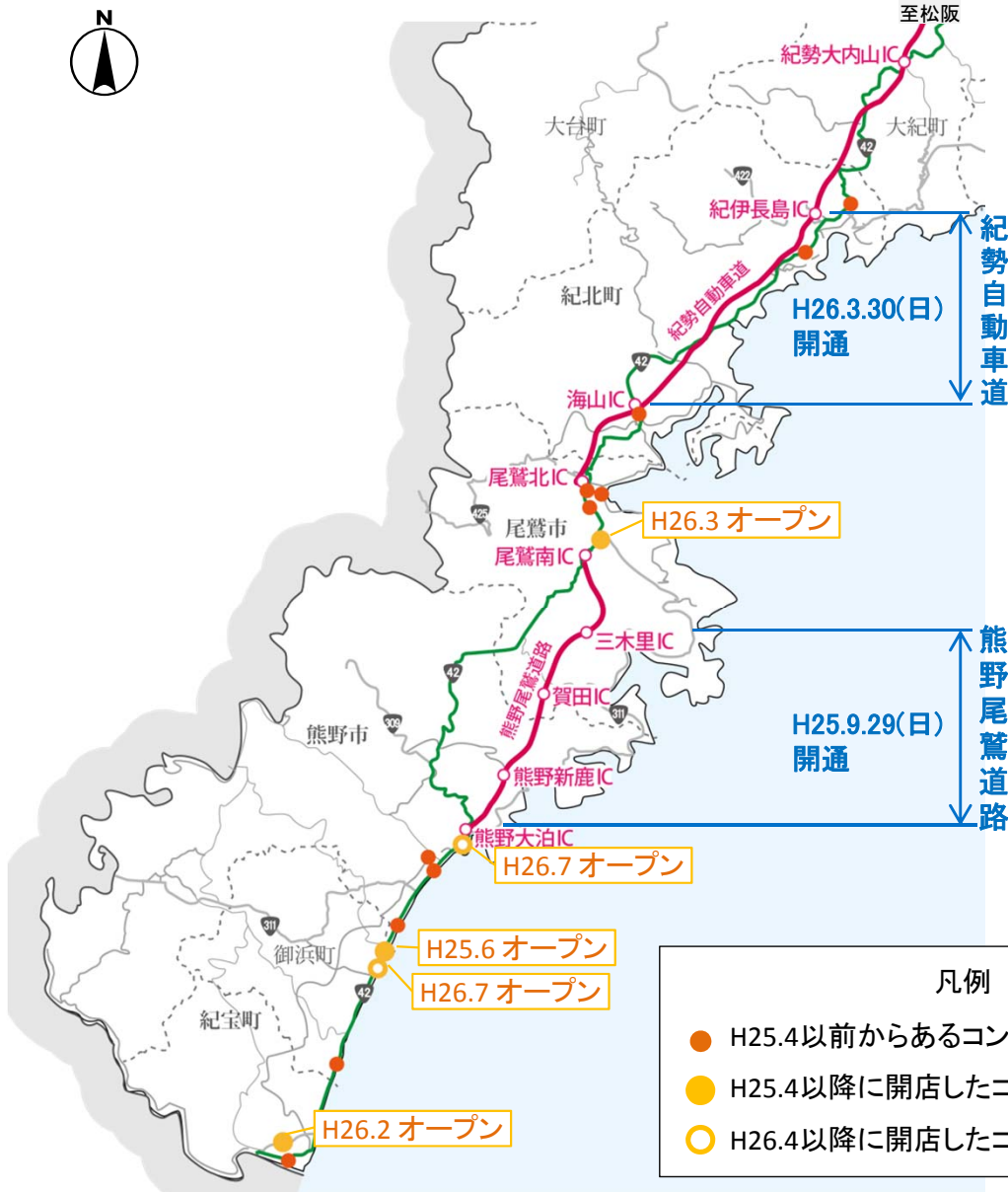
開通前:
平成25年9月16日 1:10～9:00(延べ7時間50分)
開通後:
平成26年4月30日 2:10～10:00(延べ7時間50分)

＜尾鷲市 市長公室長の声＞

尾鷲市は国道42号事前雨量通行規制区間に挟まれ、通行止になると陸の孤島になっていましたが、現在では国道42号が通行止になっても、高速道路があるので、医療・物流・人の移動などすべての面において安心です。

～地域生活の変化(コンビニエンスストアの増加)～

- 紀勢自動車道・熊野尾鷲道路の**開通を機に熊野大泊IC以南では国道42号沿線に出店した新規店舗が多数**みられます。
- コンビニエンスストアの地域本部からは、「**大雨時の通行止の心配がなくなり、商品を安定的に店舗へ搬送できるようになりました。**」との声がありました。



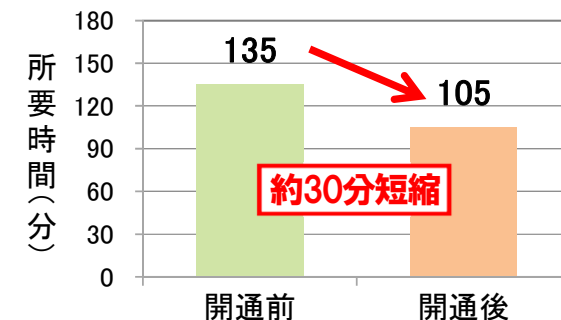
■ コンビニエンスストア地域本部の声

- 大雨時の通行止の心配がなくなり、商品を安定的に店舗へ搬送できるようになりました。
- 津市にある工場から東紀州地域にある店舗へ商品を毎日4回以上搬送していますが、搬送時間の短縮など物流面での効果が大きいと感じています。
- 特にお弁当などの搬送は、生ものを扱うため非常に重要です。
- 「新規店舗の立地」の可能性は十分にあり、現在も検討を進めています。



資料: 紀勢国道事務所によるコンビニエンスストア地域本部へのヒアリング調査結果より

■ 津市から熊野市までの所要時間の短縮



資料: 熊野尾鷲道路は規制速度、その他の道路についてはH22年道路交通センサスを用いて算出

東紀州地域高速道路整備効果検討会

平成26年6月に国・高速道路会社・県・市町が一体となり「東紀州地域高速道路整備効果検討会」を設立しました。

東紀州地域では昨年度、紀勢自動車道・熊野尾鷲道路が開通しました。

高速道路の開通を機に自治体による記念キャンペーン等の取組の結果、当地域には多くの観光客が訪れるなど、高速道路の開通による様々な効果が表れています。

今回、高速道路の開通がもたらした様々な効果を「国・高速道路会社・県・市町が一体」となって、幅広く調査・分析する事で、「個々では見えなかった効果」や「今、地域が必要としている事」などを把握し、それを広くPRする事などにより、東紀州地域の更なる地域活性化に期待しています。

三重県県土整備部道路企画課・尾鷲市市長公室・熊野市市長公室・紀北町企画課
御浜町産業建設課・紀宝町企画調整課・中日本高速道路株式会社名古屋支社
国土交通省中部地方整備局紀勢国道事務所



三重県



尾鷲市



熊野市



紀北町



御浜町



紀宝町



中日本高速道路(株)



国土交通省